

# 見沼の — 浦和博物館特別展 —

# うつりかわり

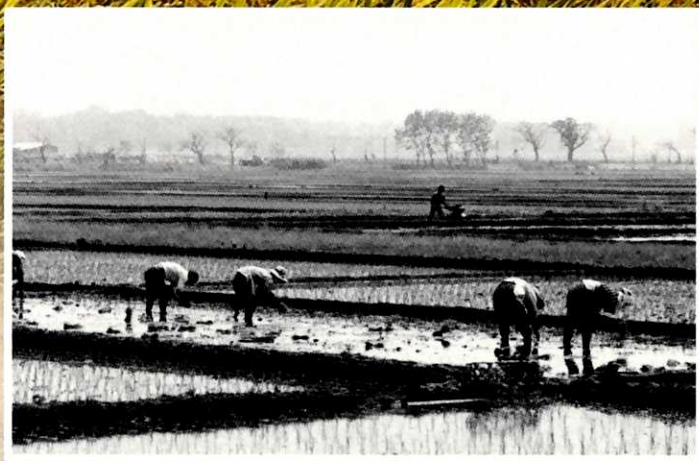


**会場** さいたま市立浦和博物館2階

**期間** 平成22年  
**10月9日(土)~**  
**12月12日(日)**

**開館時間** 午前9時~午後4時30分

**休館日** 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日



見沼たんぼの田植え(昭和41年/1966年)

**関連講座**

## 「見沼の開発史」

11月28日(日)浦和コミュニティセンター  
(浦和駅東口駅前・コンナール9階)にて開催  
(詳しくは裏面をご覧ください)





いたま市の中央に位置する「見沼」は、それぞれの時代の自然の条件や社会の要請に沿って、その姿を変えてきました。

現在では、貴重な緑地空間として、また市民のいこいの場として親しまれている見沼。今回の展示では、見沼の役割や風景、見沼と人々との関係が、かつてはどのようなものだったか、そしてどのように変わってきたのかをご紹介します。

## 「見沼の誕生」

旧石器時代には谷間、縄文時代には海の入江だった見沼。見沼はどのようにして誕生したのかを探ります。

## 「『見沼溜井』をつくる」

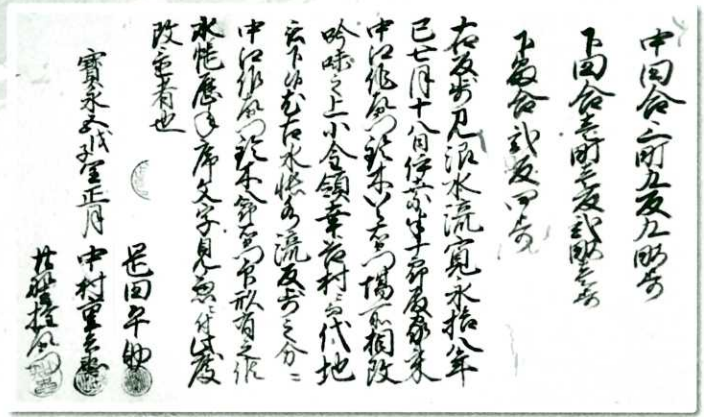
新田開発のための水源に選ばれた見沼。江戸時代の初めの見沼溜井の造成の様子を見てゆきます。

## 「みんなでつくった『見沼田んぼ』」

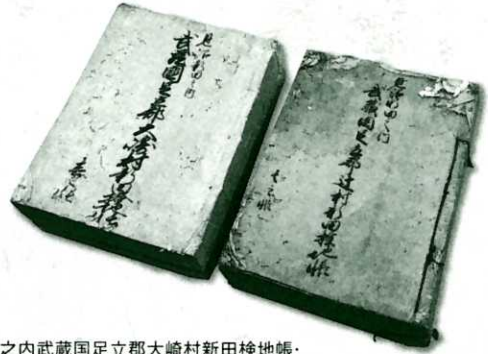
いよいよ見沼が田んぼになるときがきました。計画はどうつくれ、工事はどのように行われたのでしょうか。

## 「見沼の今と未来」

緑の空間として親しまれている見沼。現在の見沼田んぼや見沼代用水には、どのような役割があるのか考えてみませんか？



武州足立郡南部領中丸村見沼水流反歩改帳(さいたま市立博物館蔵・部分)



見沼新田之内武蔵国足立郡大崎村新田検地帳・見沼新田之内武蔵国足立郡辻村新田検地帳(享保16年/1731年)



少なくなってきた田んぼでのさざ掛け(昭和55年/1980年ごろ)

## 関連講座 「見沼の開発史」

見沼にどのように人の手が加わり変化してきたか、その理由や社会的な背景はどのようなものであったのかを解説します。

**講師** 松浦茂樹先生  
(東洋大学国際地域学部教授)

**日時**

11月28日(日) 14時~15時30分(13時開場)

**会場**

浦和コミュニティセンター第15集会室  
(浦和駅東口駅前「コムナーレ」9階)

●ご参加にはお申込みが必要です。  
浦和博物館へ、お電話(048-874-3960)、  
または直接お申込み下さい。  
受付開始:11月5日(金) 午前9時から

**入場無料**

# さいたま市立浦和博物館

〒336-0911 さいたま市緑区三室2458  
TEL&FAX 048-874-3960

### 交通案内

- JR北浦和駅東口バスターミナル(中山道東側)から「さいたま市立病院」行きバス約20分、終点下車すぐ
- ※専用の駐車場がありませんので、バスをご利用ください。

**R40** PRINTED WITH **SOY INK**  
この印刷物は古紙の配合40%の再生紙と環境にやさしい「大豆インキ」を使用しています  
このちらしは6000部作成し、1部あたりの印刷経費は18円です。

